

となる。また、発信（質問）する際には、相手がどのような反応をとるか、推測しておく必要もある。日本人から逆に質問を受けることもあるからだ。討論の際には、常に推測能力を鋭敏にして、相手の考えや態度を理解しようとする姿勢を整えておかなければならない。このように、発信と受容を繰り返して討論が成り立つのだが、その間に常に介在しているのが推測の技術であるといえるだろう。

7. 結論

前半では、E-learning 教材、「漢字道場」の開発構想について説明し、「語彙のネットワークの中での意味理解（文脈化）」と「教材の階層化」の重要性を指摘した。後半ではそれらをどのように漢字語彙教育および読解教育に応用できるかを、具体的な教材例を提示しながら探ってきたが、その過程で「推測する能力」が意味・内容の理解に大きな役割を果たしていることが明らかになってきた。さらに、「推測能力」には文中の語彙レベルのものと文章全体の文脈における思考レベルのもの2種類があることを指摘した。

これらの推測能力は語彙教育と読解教育を効果的に行うために養成すべき技術であると考えられる。この推測の技術を活用して、受容中心の授業だというイメージが強かった読解の授業を、積極的に発信し、討論するための前段階の授業であると位置づけることで、読解の授業をより活性化することができるのではないかと提案をした。今後はより詳細に先行研究を分析すると同時に、推測能力の働きやメカニズムを授業を観察する中で探っていきたいと思う。

参考文献

- 印道緑, 田吹ともみ, 應地弥生 (2007) 「日本語入門講座におけるコース運営上の留意点—学習者の苦手意識をめぐって—」『北九州市立大学国際論集』5, 63-72. 北九州市立大学国際教育交流センター
- 老平実加 (2013) 「未知語の意味類推に漢字語彙の意味的透明性を与える影響」2013 CAJLE Annual Conference Proceedings. 210-218.
- 川口義一 (1993) 「コミュニカティブアプローチの漢字指導」『日本語教育』80, 15-27. 日本語教育学会
- 桑原陽子 (2010) 「漢字圏学習者の漢字未知語の意味推測における統語情報の利用—中上級学習者のケーススタディーより—」『福井大学留学生センター紀要』5, 1-9. 福井大学留学生センター
- 清水百合, 永守彰子, 花田敦子, 岡野美恵, 松崎定子, 岩元由紀子 (1998) 「漢字語彙の運用力をつける指導について」『九州大学留学生センター紀要』9, 95-104. 九州大学留学生センター
- 藤井涼子 (1997) 「漢字教育」『日本語教育』94, 85-90. 日本語教育学会
- 松本順子 (2002) 「日本語学習者の漢字理解に文脈支持が与える影響—英語母語話者の場合—」『日本語教育』115, 71-80. 日本語教育学会
- Matsumoto, K. (2004). Tayoona ninchi nooroku-ni sasaereta gainen shuutoku-no sokumen-kara-no gengo kyooiku. Paper presented at JCLA (The Japanese Cognitive Linguistics Association) Conference, Kansai University.